

財団ニュース

昭和53年度才1号

通巻4号



財団法人

山田科学振興財団

財団ニュース第1号をお届けしたのは昨52年8月でした。
その第4号をお届けする今日、事業は一巡して昨年度の第
1回総集会を迎えております。本号は会のメモを兼ね乍ら
近況を報告いたします。編集の腕が拙く、私製プリントの
ため、お見苦しいと存じますが、もう少々の間ご勘弁の程
お願いいたします。

昭和53年6月

山田科学振興財団事務局

事業及び事務報告

年月日	内容
53. 2. 20	研究援助の決定内容を本人、所属学部、推薦学会の他関係官庁、協会財団、報道等への発送。
53. 3. 2	選考委員候補へ承諾依頼発信
53. 3. 6	川井評議員候補へ承認依頼発信
53. 3. 24	第8回選考打合せ会及び懇談会
53. 3. 27	昭和53年度研究援助申請要領等を学部、研究所。諸団体等へ発送
53. 3. 28	昭和53年度事業計画、収支予算書及び第2回評議員会ならびに理事会の各議事録を文部省、大阪府教育委員会へ発送
53. 4. 29	長期派遣への採用4名決定
53. 5. 8	決算監査終了
53. 5. 15	昭和53年度第1回評議員会、理事会及び選考委員会。 昭和53年度第1回選考打合せ会

第1回総集会のメモから

(評議員会、理事会及び選考委員会の各議事録参照)

1. 山田コンファレンスについて

- 1、山田コンファレンスの成立と現在の進行状況を評議員会の席上、神谷理事が解説されました。英文サーキュラーが出来ましたので別添いたしておきます。

ロ、山田コンファレンスの基本方針案を評議員会の席上「山田コンファレンス典範」として紹介しましたが、次のようなご意見がありました（一部書信）。

1. 外人の招へい旅費、滞在費を十分見ておくこと。
2. 参加者の限度50名は少すぎることに。
3. 成果刊行物は将来も同一体裁で出版すること。
4. 参加費等を全く拒む理由はないこと。
5. 参加者の年齢制限は再考すべきこと。
6. /件500万円迄、自己負担付きで70人程度のゴードン会議的な集会を年間3回位実施してはどうか。

関係方面の期待にこたえるため、早急に確立したいと存じます。

ハ、今回の山田コンファレンスの成果刊行物は、東大出版会から菊版400頁位の体裁で刊行する予定です。

2. 研究援助の選考について

イ、審判手順と関連して、今年も昨年のようにレフェリー・メイト間の審判結果を事務局を通じて相互交換すること。

ロ、評価事項のうち、第3項学際性という語の意義を誤らぬよう使い方に注意を払うべきこと、この件に関する岡村選考委員のご意見を添付いたしておきます。

ハ、新進研究者を疎外せぬようにするため同じく第7項の既往業績にこだわらぬように注意すること。

ニ、同じく第9項は他財団への併行的援助要請が、本財団への援助要請とどのようにからみ合うかをご批判願う意味で設けられていること。

ホ、評価事項は評価に際しての着眼点であるが、各評価事項毎の評価より、総合評価が尊重されること。

ヘ、次に別刷の利用については担当審判宛て、事務局に届いている別刷を明示し、必要あらば内容を伝えること。なお、明54年度には提出別刷の篇数の制限を考慮すること。（前例：三菱財団は3篇、トヨタ財団は5篇に限定）

ト、学会の大小に基く推薦者数の階段化を今後、選考委員会、理事会で研究するが、一方対象分野の限定を伴う公募方式も考えていること。

チ、ノケ年以上に亘る継続援助も実質的には拒んではないこと。

以上、いずれの問題も年毎、問題毎に柔軟に対処したいと結論された。

意見集

事務局の業務に関してお寄せ下さったご意見をまとめてみました。

ご厚情に対し謹謝いたします。

1. 現行派遣援助申請をみると、申請者から国外の派遣先へ向けての発信文を添付していない例がある。これでは派遣交渉のやりとりが判らないので往信も必ず呈出するよう明示せよ。
2. 現行派遣援助申請書には研究主題（英訳名）としか記していない。学会等の派遣目的も記入できるよう改めよ。
3. 現行長期招へい申請書中の被招へい者調書（英文）を簡素化せよ。
resume 又は curriculum vitae で代用できないか。
4. 研究援助候補推薦要領の冒頭文中「学際的色彩云々」の使い方には慎重であるように。（別記を再録）
（以上々件については本年度中に検討します。）
5. 研究援助申請時に呈出する関連報文の著者名および頁の記載法を改めよ。
（現行申請書で訂正しました。）
6. 集会援助に際しては印刷物、成果刊行物等に acknowledgment を入れるよう希望せよ。
（実行しています。）
7. 財団の会議での配布書類が読み辛い。寸法、体裁をととのえよ。
（記録類は B 5、図表類は A 4 寸法に揃えましたが、体裁については、今後改善に努めます。）
8. 財団ニュースを体裁、内容とも充実せよ。
（努力いたします。）

事務 ニ ュ ー ス

1. 当財団 吉識顧問が 4月29日発表の春の叙勲で勲一等瑞宝章を受章されました。謹んで祝意を表し、今後いっそうのご活躍をお祈りいたします。

2. 連絡先変更のお知らせ

高村理事 〒606 京都市左京区吉田本町 京都大学工学部

近藤監事 〒300-21

茨城県筑波郡谷田部町館野 国立公害研究所 0298
(51)1681

3. 試験研究法人承認申請手続を文部省へむけ始めています。正式文書の提出はもう少々先のことになりそうです。

4. 昭和52年度研究援助金贈呈の現状

7月早々には前半の額を研究者へお届けする準備を整えております。手順は次の如くです。

イ、本人宛一研究援助金明細書、注意書き、請求明細書、研究内容の自己紹介要求書を発信。別に奨学寄附金寄附申請書のコピーを参考資料としてつける。

学部長宛一奨学寄附金寄附申請書を発信。別に参考資料として本人宛送付書類のコピーをつける。

以上発信は4月20日迄に完了しました。

ロ、本人から写真、請求明細書、研究概要を受信。

ハ、大学等から奨学寄附金受入書を受信。

ニ、大学等から納入告知書を受信。

ホ、財団から納入告知書に従って研究援助金を納める。

以上が現在進行中です。

前記の例に該当しない向きは財団が業務を代行します。

5. 昭和52年度年報の編集

只今原稿を整えております。

イ、援助する研究の概要紹介は代表研究者にお願いしました。

書類未着の方が5名ありますが、6月中には届くことと思います。

ロ、派遣、招へい及び集会等の援助の成果報告も年度末近く実施した件を除いて集計されました。

6. 人 事

- 53. 3. 16 平田美子を財団事務局へ採用。
- 53. 3. 22 朝比奈久枝を財団事務局へ採用。
- 53. 5. 16 ロート製薬株式会社より正善剛雄の向うノケ年間財団へ
出向辞令を受領。